



第72回

全国植樹祭



木を植えよう びわ湖も緑のしずくから

基本計画



滋賀県

Shiga Prefecture

目次

第1章 開催概要

1	開催意義	1
2	滋賀県における全国植樹祭の開催状況	1
3	開催理念	2
4	開催方針	3
5	大会テーマ	4
6	シンボルマーク	4
7	大会ポスター原画	4
8	開催会場	5
9	主催	7
10	開催規模	7
11	開催時期	7

第2章 式典行事計画

1	基本的な考え方	8
2	式典演出計画	8
3	式典運営計画	8
4	式典進行プログラム	9

第3章 植樹行事計画

1	基本的な考え方	10
2	お手植え・お手播き計画	10
3	代表者記念植樹計画	13
4	招待者記念植樹計画	13

第4章 会場整備計画

1	基本的な考え方	14
2	施設配置図・イメージ図	14
3	主要施設計画	16
4	案内・誘導計画	17
5	電気・給排水・通信設備計画	17
6	飾花計画	18

目次

第5章 運営計画

1	基本的な考え方	19
2	招待計画	19
3	招待者行動計画	20
4	受付計画	21
5	会場内動線計画	22
6	特別接伴計画	23
7	湖国「滋賀」のおもてなし・魅力発信	24
8	医療・衛生計画	26
9	消防・防災・警備計画	26
10	実施本部計画	27
11	研修リハーサル計画	28
12	雨天時・強風時対応計画	28

第6章 宿泊・輸送等計画

1	基本的な考え方	29
2	宿泊計画	29
3	輸送計画	30
4	運行管理体制・緊急時対応	30
5	道路交通対策	30

第7章 荒天時計画

1	基本的な考え方	31
2	開催会場	31
3	開催規模	31
4	荒天時運営計画	31

第8章 記念事業等計画

1	基本的な考え方	32
2	記念事業	32
3	関連事業	33

第9章 広報・協賛計画

1	基本的な考え方	34
2	広報計画	34
3	協賛計画	35

1 開催意義

本県は、すべての県民が森林づくりに主体的に参画し、長期的な展望に立ち、森林の持つ多面的機能が持続的に発揮されるよう、緑豊かな森林を守り育て、琵琶湖と人々の暮らしを支えるかけがえのない滋賀の森林を健全な姿で未来に引き継ぐことを決意し、平成16年(2004年)に「琵琶湖森林づくり条例」を施行しました。

また、その翌年の平成17年(2005年)には、この条例の理念を実現するため、琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりの推進を基本方向とする「琵琶湖森林づくり基本計画」を策定し、県民をはじめ多様な主体とともに、森林・林業に関する様々な取組を展開することとしました。

さらに、平成29年(2017年)には成熟期を迎えた森林資源を循環利用するため、県、市町、関係者等、様々な主体が一体となって取組を講ずるための具体的な行動計画として「しがの林業成長産業化アクションプラン」を策定し、林業の成長産業化に向けた取組を進めているところです。

一方、平成27年(2015年)に成立した「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」では、琵琶湖が「国民的資産」と位置づけられたところであり、平成29年(2017年)3月にはこの法律に基づく「琵琶湖保全再生計画」を策定し、琵琶湖とその水源となる森林を守り活かしていく政策を本格的に進めていくこととしました。

こうした中で、2021年に開催する全国植樹祭は、本県の魅力や琵琶湖と森林とのつながりを活かした取組を全国、さらには世界に向けて発信する絶好の機会とし、滋賀ならではの特色ある有意義な大会にしてまいります。

2 滋賀県における全国植樹祭の開催状況

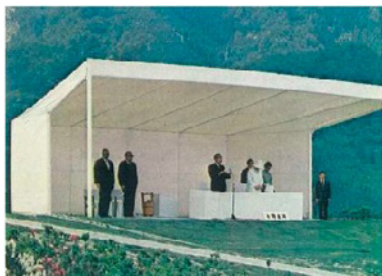
滋賀県では、昭和50年(1975年)5月25日、栗太郡栗東町金勝山(現在の栗東市)において、天皇皇后両陛下をお迎えし、「水と緑のふるさとづくり」を大会テーマに、第26回全国植樹祭を開催しました。

この大会では、天皇陛下がヒノキの苗木を、皇后陛下がモミジの苗木をお手植えになるとともに、前日には坂田郡山東町夫馬(現在の米原市)において、天皇陛下がヒノキの種子を、皇后陛下がモミジの種子をお手播きになりました。

また、約1万人の参加者により、ヒノキ、マツ、ケヤキ、サクラなど14種類、約1万4千本の苗木が12ヘクタールの敷地に記念植樹されました。

金勝山の式典会場は、現在、県有の森林公園「滋賀日産リーフの森^{※1}(県民の森)」として県民等に親しまれています。

昭和50年(1975年)開催された第26回大会の様相



天皇陛下のおことば



天皇陛下お手植え



皇后陛下お手植え

※1 滋賀日産リーフの森: 県立の森林公園「県民の森」のネーミングライツ(命名権)を滋賀日産自動車株式会社が取得し愛称としたもの。

3 開催理念

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、琵琶湖を中心に抱き、周囲を山々に囲まれた水と緑が豊かな県です。雄大な山々とその頂から眼下に広がる壮大な琵琶湖は、我が国最大の湖ならではのダイナミックな景観を形成するとともに、多種多様な彩りを見せる森林と碧く輝く琵琶湖は、一体となって四季折々の風景を作り出しています。



山々に降り注ぐ一滴は、やがて川となって田畑や里地を潤しながら、琵琶湖へと流れ込み、琵琶湖の豊かな生態系を育んでいます。県土の2分の1を占める滋賀の森林は、琵琶湖の水源として貴重な役割を果たすと同時に、土砂の流出を防ぎ私たちの生活や財産を守るなど、様々な恩恵を与えてくれています。また、400万年もの歴史を有する琵琶湖は、私たち滋賀県民と琵琶湖の下流域に住む京阪神1,450万人の暮らしを支える水源であるとともに、60種以上もの固有種を含む貴重な自然環境および水産資源の宝庫となっています。

森林と私たちの暮らしのかかわりを振り返ると、古代より、奈良や京都そして滋賀の壮麗な宮殿・社寺の建設には、滋賀の木材が多く利用されてきました。また、中世・近世・近代にかけて、人々は貴重な森林資源を巡り、争い、話し合い、力を合わせるというドラマを展開してきました。一方、県内には山村地域を中心に、森林と共存してきた木地師や杣人としての暮らし、山の神に対する信仰や祭礼など、多種多様な森林文化が根付いています。木を植え、育て、伐って利用し、また植えるという先人たちの取組は、まさに持続可能な森林づくりの礎であり、現在に暮らす私たちもしっかりと次の世代に受け継いでいく必要があります。また、「せっけん運動^{※1}」をはじめ、湖岸の清掃やヨシ刈りなど琵琶湖の環境保全に熱心に取り組む姿勢や、琵琶湖の下流域で水を利用する人々を気遣う思いやりの精神は、滋賀の県民性として私たちの暮らしの中に定着しています。



森 - 川 - 里 - 湖のつながり

※1 せっけん運動: 琵琶湖で1977年(昭和52年)5月に淡水赤潮が大規模に発生し、この淡水赤潮の原因の一つが合成洗剤に含まれているリンに起因していたことから、県民が主体となって合成洗剤の使用をやめ、粉石けんを使おうとした運動。

このような中、「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」において、琵琶湖が「国民的資産」と位置づけられました。また、国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)※2」の視点も活かしながら、本県として持続可能な社会の実現を目指していくこととしました。これらを踏まえて、様々な主体との協働により、琵琶湖を保全・再生するとともに、その水源である森林を守り、育て、そして木材として積極的に使うことで、持続可能な滋賀の森林づくりを推進していくこととしています。

私たちは、第72回全国植樹祭の開催を通じて、県民一人ひとりが山や木に直接触れ、森林について考える機会を増やすとともに、森林・林業や農山村に対する意識醸成と県産材の利用促進、将来を見据えた持続可能な森林づくりなど、県民が一丸となって森林を「守る」、「活かす」、「支える」ことで、これらを一体的に推進する「やまの健康」につながる本県らしい取組を進めていきます。

これらのことを踏まえ、以下の開催理念のもと、第72回全国植樹祭を開催します。

第72回全国植樹祭開催理念

私たちは、ふるさと滋賀の地域特性である「森－川－里－湖」のつながりと、いにしえより培われてきた「森林」、「びわ湖」、「人(暮らし)」のかかわりを再確認し、将来を見据えながら森林を守り、活かし、これらの取組を支えることで、碧(あお)く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいきます。

※2 SDGs(持続可能な開発目標):平成27年(2015年)9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた17の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画。目標の一つである「陸の豊かさを守ろう」には、内陸淡水生態系の保全や森林の持続可能な管理等が掲げられている。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



滋賀県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

4 開催方針

- (1) 全国植樹祭を通じて、開催理念や本県の魅力等を最大限に発信します。
- (2) 県民総ぐるみで全国植樹祭を盛り上げ、全国から参加される皆さんを「おもてなしの心」でお迎えます。
- (3) 全国植樹祭の開催にあたっては、経費の節減に努めながらも、多様な主体と連携しながら、県民の皆さんと森林に関わる人々の心に残る、滋賀らしい大会となるよう努めます。
- (4) 全国植樹祭の開催を契機とし、開催後も県民総ぐるみで将来を見据えた持続可能な森林づくりを目指していけるよう、SDGs(持続可能な開発目標)の視点を活かした大会とします。
- (5) 会場整備や大会運営にあたっては、環境に最大限配慮した大会を目指します。

5 大会テーマ

木を植えよう びわ湖も緑のしずくから

全国から応募があった1,730点の作品の中から選定しました。

- 作者：やすおか なおき 保岡 直樹さん（東京都世田谷区）
- 制作意図： 山の木の葉のひとしずくが集まって川となり、清き流れは大地をうるおし、豊かな琵琶湖をはぐくむ。そんな大自然の循環を「緑のしずく」に例えています。“輝く水も、植樹から”という思いを作品にしました。

6 シンボルマーク

全国から応募があった393点の作品の中から選定しました。

- 作者：まつおか ひでお 松岡 英男 さん（山形県山形市）
- 制作意図： 豊かな緑に包まれて、琵琶湖(県)との一体感、若葉がすくすくと伸びる植樹の喜びと期待感を、県民の喜び顔に象徴して、次世代と次の世代へとよろこびの輪(和)をひろげ繋いでまいります。



7 大会ポスター原画

県内の小学校・中学校・高等学校等から応募があった841点の作品の中から選定しました。

- 作者：なかがわ あい 中川 甘苺 さん（滋賀県立栗東高等学校 1年）
※令和元年度現在
- 画題： 未来につなぐ
- 制作意図： これからも、老若男女を問わず、この先の未来に緑をつないでいきたいという願いを込めました。



第1章 開催概要

8 開催会場

● 開催会場位置図

<凡例>

- 式典会場
- 招待者記念植樹会場
- 荒天会場
- サテライト会場
- 一般植樹会場
- PR会場
- 全国林業後継者大会



(1) 式典会場

式典会場では、式典行事、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き行事などを実施します。なお、暴風雨等の荒天時は、荒天会場で規模を縮小して実施します。

かふか ゆめ もり

◆ 鹿深夢の森 (甲賀市甲賀町大久保507 番地2)

琵琶湖の水源地であり、かつ、林業の盛んな地域に位置する「鹿深夢の森」は、扇形の多目的芝生広場を園内中央に有するとともに、敷地内には甲賀図書館や子育て包括支援センター「ここもーり」なども併設されており、大人から子どもまで幅広く活用できる施設として市民に親しまれています。



(2) 招待者記念植樹会場

県内外の招待者が記念植樹を行う植樹会場として、式典会場内や近隣地をはじめ、県内各地に設置します。

会場名	所在地
鹿深夢の森(式典会場併設)	甲賀市
比叡山	大津市
油日林木育種場	甲賀市
みなくち子どもの森	甲賀市
希望が丘文化公園	野洲市
東近江市新出町	東近江市

(3) サテライト会場等

県民をはじめより多くの方々と開催理念を共有し、全国植樹祭の開催効果を高めるため、県内各地にサテライト会場や一般植樹会場を設置するとともに、琵琶湖・淀川流域の府県にPR会場を設置します。

区分	会場名	所在地
サテライト会場 ※大会当日に開催	えきまちテラス長浜	長浜市
	琵琶湖博物館	草津市
一般植樹会場 ※大会当日に開催	びわこ地球市民の森	守山市
	森林公園くつきの森	高島市
	きゃんせの森	米原市
PR会場 ※大会前に開催	(琵琶湖・淀川流域の府県に設置)	(未定)

9 主催

公益社団法人国土緑化推進機構
滋賀県

10 開催規模

第72回全国植樹祭は県内外から参加する招待者、協力者・スタッフ等を含め、5,000 人程度の規模で開催します。ただし、荒天時は縮小します。

参加者区分	参加予定者数	備考
県外招待者	1,100人	国関係者、被表彰者、各都道府県招待者等
県内招待者	1,900人	県議会議員、市町関係者、森林・林業・緑化関係者、実行委員会委員、公募招待者等
本部員・協力員	2,000人	実施本部員、協力員、出演者、運営ボランティア等
合計	5,000人	

11 開催時期

令和3年(2021年)春季

1 基本的な考え方

式典行事は、次の事項を基本として実施します。

- 開催理念を共有するとともに、参加者の心に残る植樹祭とします。
- 式典は、簡素化を図りながらも、厳粛で品格があるものとします。
- 県内外、子どもや高齢者、障害者など、できるだけ多くの方々や、大会に賛同いただいた企業・団体等が参加できるよう配慮します。

2 式典演出計画

式典の構成は、プロローグ、記念式典、エピローグの3部構成とします。

区分	演出テーマ	内容
プロローグ	【過去を知る】 「森林・びわ湖・人のハーモニー」	400万年前から続く母なるびわ湖、父なる森林、そして県民たちのかかわりを、県民パフォーマンスで情緒豊かに表現
記念式典	【今、誓う】 「～ひとしづくから始まる～ びわ湖水源の森林づくりへの誓い」	森-川-里-湖のつながり、森林・びわ湖・人のかかわりを讃え、びわ湖を育む水源の森林づくりへの県民の誓い
エピローグ	【未来へつなぐ】 「次世代につながる森林に思いをはせて」	次世代につながる森林づくりへの想いを、滋賀県の未来を担う若い世代と今活動している県民たちが未来へつなぐ大フィナーレ

3 式典運営計画

式典の運営は、次の事項を基本とし、滋賀県らしさを感じていただける運営を行います。

- 参加者の安全性、快適性に十分配慮し、緑の少年団やボランティア等の方々の協力を得ながら行います。
- 司会者、アシスタント、式典音楽隊の出演者等については、地元団体をはじめ県内の関係団体等の積極的な協力と参加を得て編成します。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

4 式典進行プログラム

時間	区分	プログラム	進行内容
	イントロダクション	来場者の歓迎、プログラム案内等	
45分程度	プロローグ	プロローグ案内	
		プロローグアトラクション	●演出テーマ【過去を知る】 「森林・びわ湖・人のハーモニー」
		記念式典の案内	
50分程度	記念式典	天皇皇后両陛下 御着席	
		開会のことば	国土緑化推進機構副理事長
		三旗掲揚・国歌斉唱	
		主催者挨拶	大会会長(衆議院議長)、滋賀県知事
		天皇陛下のお言葉	
		表彰	緑化功労者などへの感謝の表彰
		苗木の贈呈	緑の少年団から、農林水産大臣と環境大臣に苗木を贈呈
		天皇皇后両陛下お手植え・お手播き 代表者記念植樹	
		大会テーマの表現	●演出テーマ【今、誓う】 「～ひとしづくから始まる～ びわ湖水源の森林づくりへの誓い」
		大会宣言	国土緑化推進機構理事長
		リレーセレモニー	次期開催県への引き継ぎ
		閉会のことば	滋賀県議会議長
		天皇皇后両陛下 御退席	
30分程度	エピローグ	エピローグ案内	
		エピローグアトラクション	●演出テーマ【未来へつなぐ】 「次世代につながる森林に思いをさせて」

1 基本的な考え方

- 将来目指すべき森林の姿をイメージした上で、本県の気候風土や立地条件に適した樹種を選定します。
- 植樹用の苗木は、県内で採取した種子等により育成したものを基本とします。また、苗木のホームステイなどにより、苗木づくりの段階から子どもや企業、団体等の皆さんにも参加していただきます。
- 県民の皆さんとの協働による森林づくり活動の拡大につなげていく契機とするため、緑の少年団や植樹指導を行うボランティアをはじめ、子どもや高齢者、障害者など、できるだけ多くの方々が参加できるよう配慮します。

2 お手植え・お手播き計画

- 天皇皇后両陛下にお手植えとお手播きを賜ります。
- お手植えされた記念樹は、第72回全国植樹祭の開催を記念し、琵琶湖を育む豊かな森林づくりのシンボルとして、大切に管理・育成していきます。
- お手播きされた種子から養成した苗木は、滋賀県が管理・育成し、県内の公共施設等に「記念樹」として配布します。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会


■ 天皇陛下お手植え樹種 3種

	樹種	特徴・選定理由など
スギ (少花粉)		<p>【滋賀県の林業における主要樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギは滋賀県の人工林面積の半分以上を占め、滋賀県の林業における主要な樹種です。 ・滋賀県で選抜された花粉の飛散量の少ないスギ「蒲生1号」など、滋賀県では独自に少花粉スギの調査・開発を進めています。 ・滋賀県で生産する少花粉スギは、滋賀県の人工林の未来を担うものとして期待されています。
トチノキ		<p>【滋賀県北部に巨木林が存在する樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県指定天然記念物となっている高島市の「朽木のトチノキ巨木林」や、長浜市で県内最大の巨木が確認されるなど、県北部にはトチノキの巨木が数多く見られます。 ・トチノキの実は昔から大切な食材として利用されてきました。トチノキの実を餅米に混ぜて作るトチ餅は、今でも滋賀県で食べられています。
アカガシ		<p>【曳山の材料として使われる樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材が赤みを帯びていることからアカガシと呼ばれ、重硬で木目が美しく、建築、器具、楽器などに用いられます。 ・国の重要無形民俗文化財に指定されている大津祭で使われる曳山の車輪にその材が利用されているなど、滋賀県の文化と深い関わりがあります。 ・カシ類は暖かい地域に自生する樹木ですが、アカガシは県北部の南斜面にも自生し、「新・日本名木百選」に選ばれた長浜市の「黒田のアカガシ」などの巨木も多く見られます。

■ 皇后陛下お手植え樹種 3種

	樹種	特徴・選定理由など
ヒノキ		<p>【第26回大会のお手植え・お手播き樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒノキは、スギの次に滋賀県の人工林面積を占める樹種であり、滋賀県の林業を担う樹種です。 ・昭和50年に滋賀県で開催された第26回全国植樹祭において、昭和天皇がお手植え・お手播きされました。 ・甲賀市は県内で最もヒノキ人工林面積が大きく、地域の銘柄「甲賀ヒノキ」の産地として知られています。
イロハモミジ		<p>【滋賀県の「県の木」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県に多く見られる樹種であり、「モミジ」は滋賀県の「県の木」として県民に広く親しまれています。 ・昭和50年に滋賀県で開催された第26回全国植樹祭において、香淳皇后がお手植え・お手播きされました。 ・紅葉が非常に美しい樹種の一つであり、県内には紅葉の名所がたくさんあります。
エドヒガン		<p>【春に紅色や淡紅色の美しい花をつける樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月上旬に紅色や淡紅色の美しい花をつける桜の木です。ソメイヨシノの母種にあたる樹種でもあります。 ・滋賀県では高島市の山麓地帯に多く見られ、特に百瀬川流域には自生のエドヒガンが群生し、全国的にも珍しい地域です。 ・長寿であることが知られ、滋賀県指定自然記念物となっている高島市の「清水の桜」など、県内にはエドヒガンの巨木が見られます。

■ 天皇陛下お手播き樹種 2種

樹種		特徴・選定理由など
クロマツ		<p>【滋賀県の琵琶湖岸に見られる樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロマツは滋賀県の琵琶湖岸に多く見られる樹種で、「ハマヒルガオ」や「ハマゴウ」などの海浜性の植物とともに自生しています。 ・大津市にある唐崎神社の「唐崎の松」は、近江八景の一つである「唐崎の夜雨」や、松尾芭蕉の「辛崎の松は花より朧にて」という句でもよく知られています。
コウヤマキ		<p>【琵琶湖水運の文化と繋がりのある樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウヤマキは水や湿気に強い材質で知られ、和船の材料や橋梁などの構造物に使われていました。琵琶湖水運の丸子船に使われた檣材もコウヤマキを指していると考えられています。 ・県内にはコウヤマキの巨木が見られます。特に、甲賀市には滋賀県指定天然記念物となっている「玉桂寺のコウヤマキ」や滋賀県指定自然記念物となっている「油日神社のコウヤマキ」といった国内最大級の巨木があります。

■ 皇后陛下お手播き樹種 2種

樹種		特徴・選定理由など
ウツクシマツ		<p>【滋賀県に自生する形の珍しい樹種】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカマツの変種であり、樹皮、葉、球果はアカマツと同じですが、根近くから多くの枝をほうき状に出し、傘形をした特徴的な樹幹を形成する樹種です。 ・湖南市の「平松のウツクシマツ自生地」は国の天然記念物に指定されており、その美しい景観から多くの人が見学に訪れています。「平松のウツクシマツ自生地」は、江戸時代に刊行された名所案内書「伊勢参宮名所図会」や「東海道名所図会」などに掲載されていることから、その時代から既にウツクシマツの美林があったと考えられています。
ホンシャクナゲ		<p>【滋賀県の「郷土の花」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シャクナゲ」は滋賀県の「郷土の花」として県民に広く親しまれています。枝先に淡紅色の美しい花を咲かせます。 ・日野町の「鎌掛谷ホンシャクナゲ群落」は、高地性のシャクナゲが低地で群生していることが大変珍しいため国の天然記念物に指定されており、4月下旬から5月上旬の開花時期にはホンシャクナゲを觀賞する多くの人で毎年賑わいます。

3 代表者記念植樹計画

- 代表者は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- 場所は、式典会場内で行うものとします。
- 代表者記念植樹の樹種は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じ樹種とします。

4 招待者記念植樹計画

- 招待者記念植樹は、県内外からの招待者が、1人1本以上の記念植樹を行います。
- 招待者は大会前日および当日の式典前後に分かれて植樹を行います。
- 滋賀県の気候風土や会場特性に適した樹木を植樹します。
- 招待者記念植樹樹種

会場名	所在地	主な樹種	
鹿深夢の森 (式典会場併設)	甲賀市	【循環型林業】 スギ(少花粉)、ヒノキ	計2種
比叡山	大津市	【循環型林業】 アカマツ(抵抗性)、クロマツ	計2種
油日林木育種場	甲賀市	【林木育種】 アカマツ(抵抗性)、スギ(少花粉)、ウツクシマツ	計3種
みなくち子どもの森	甲賀市	【森林環境学習】 オニグルミ、クリ、アベマキ、カシワ、クヌギ、コナラ、 ナラガシワ、エノキ、ケヤキ、ムクノキ、カツラ、タムシ バ、ホオノキ、クロモジ、ノリウツギ、ウツギ、センダン、 キハダ、ウリハダカエデ、メグスリノキ、ムクロジ、エゴ ノキ、タニウツギ	計23種
希望が丘文化公園	野洲市	【自然観察】 アカマツ(抵抗性)、クヌギ、コナラ、クロモジ、ウツギ、 ウワミズザクラ、ヤマザクラ、イロハモミジ、コバノミツ バツツジ、マルバアオダモ、ムラサキシキブ、ガマズミ	計12種
東近江市新出町	東近江市	【里山再生】 オニグルミ、ハンノキ、クヌギ、コナラ、カツラ、ホオノ キ、クロモジ、ノリウツギ、ナナカマド、キハダ、イロハ モミジ、ウリハダカエデ、ヤブムラサキ、ガマズミ、コバ ノガマズミ	計15種

※苗木総本数10,000本

1 基本的な考え方

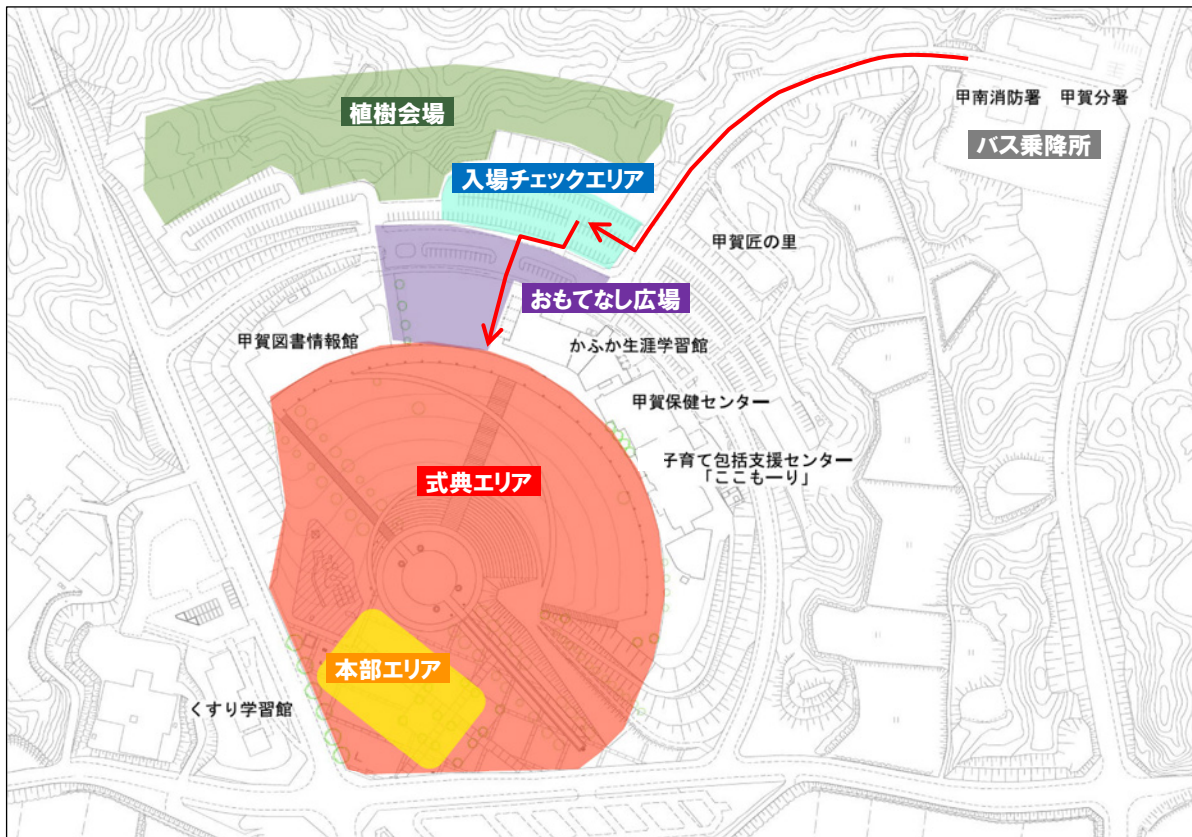
- 会場整備にあたっては、できるだけ自然環境に負荷を与えないように配慮するとともに、経費節減を図ることを基本とします。
- 会場に設置する仮設構造物等には、持続可能な森林経営により生産された県産木材をできる限り使用するとともに、再生資源の活用など、環境負荷の少ない会場整備に努めます。
- 高齢者や障害者をはじめ、すべての参加者が安全で快適に参加できるよう、ハード面はもちろんのこと、情報アクセシビリティの観点なども含めて、ユニバーサルデザインを意識した会場整備に努めます。

2 施設配置図・イメージ図

(1) 式典会場の配置

会場は、式典エリア、本部エリア、おもてなし広場、入場チェックエリア等にゾーン分けします。

会場レイアウトや構造物等については、周辺の景観との調和や、安全性、機能性を考慮するとともに、できる限り県産木材を使用します。



(2)式典会場のイメージ



3 主要施設計画

(1)お野立所

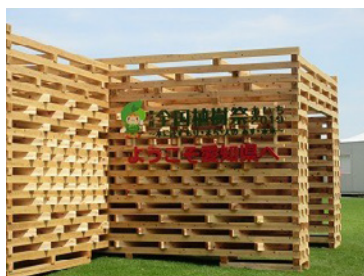
- 円形の床は琵琶湖をイメージし、柱部分は樹木を、屋根は樹冠の広がりを表現することにより、森と湖のつながりや、「滋賀らしさ」を感じさせるデザインとします。
- びわ湖材産地証明制度に基づく県産木材を使用することで、びわ湖材の普及啓発を図るとともに、背面等にびわ湖材のCLT(直交集成板)を使用します。
- 経費の節減に努めるとともに、大会終了後には、部材として再利用することを考慮して制作します。



お野立所イメージ

(2)会場内工作物

- 原則として県産木材を使用し、安全性、経済性および周辺の景観に配慮したものとします。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

4 案内・誘導計画

- 招待者が安全かつスムーズに式典や植樹行事などに参加することができ、各施設等への移動に支障がないよう、各所に案内サインを設置します。
- 案内サインの材料には、県産木材のほか、リユース可能な製品の活用等、環境に配慮した資材の使用に努めます。
- 案内サインは、ユニバーサルデザインに留意し、招待者が見やすい色彩、大きさにするとともに、見やすい位置、高さに設置します。また、ピクトサイン(絵文字)を使用する等、招待者が一目で分かるようなサインとするほか、視覚障害者向けに音声案内設備を設置するなど、障害等の特性に応じた方法で案内できるよう対応します。
- 外国の方の参加にも配慮し、状況に応じて外国語で表記します。

設置区域	サイン種別	内容
会場全体	施設表示	各エリア、施設等の名称を表示
	誘導	招待者を各エリア、施設等に誘導するサインを動線上に設置
	注意事項	遵守事項、安全管理事項、手荷物検査の協力要請事項、持ち込み禁止物に関する注意事項等を表示
式典会場	座席表示	招待者の座席位置等の表示
	会場案内図	会場内の全体図および現在地の表示
植樹会場	植樹地誘導	バス号車ごとに決められたブロックへ誘導するサインを参加者動線上に設置
	植樹位置	バス号車単位に決められた植樹ブロックを表示
輸送バス	バス号車	添乗員が招待者を誘導する際、バス号車を表示したプラカードを使用
	バス誘導	バスを会場周辺の動線に従い誘導したり、招待者乗降位置や駐車場へ誘導

5 電気・給排水・通信設備計画

(1)電気設備計画

既存設備で不足が生じた場合は、仮設電源(ジェネレーター等)を設置し対応します。

(2)給排水計画

水は既設の水道から給水し、排水は適正に処理します。

(3)仮設トイレ計画

植樹会場などに適正な数量を設置するとともに、衛生面にも十分に配慮します。

(4)通信設備計画

運営を円滑に行うため、会場の実施本部等に臨時電話を設置するほか、携帯電話やトランシーバーなどの無線通信機器を適正に配置します。

6 飾花計画

- 会場周辺の飾花は、地元で育てられた花を使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、招待者の安全かつ円滑な動線が確保できるよう配置します。
- 会場内に設置する飾花プランターカバー等には、県産木材を活用するとともに、関連イベント等の機会を通じて子どもたちと一緒に制作することで、開催機運の醸成を図ります。
- 滋賀県をはじめ、関係市町や関係団体、県民が一体となって、美化に努めます。

設置区域	内容
式典会場	各エリアの動線区分を行うとともに、会場内を華やかに演出するため、プランター等を設置します。
植樹会場	各エリアの植樹区分をわかりやすくするため、プランター等で区分します。
会場周辺道路	滋賀県および関係者が一体となって飾花を行い、招待者に歓迎の意を表します。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

1 基本的な考え方

- 全国から参加される皆さんを、県民一丸となって「おもてなしの心」でお迎えし、開催の意義や理念を全国、さらには世界に発信する場とします。
- 全国植樹祭の運営にあたっては、市町、関係団体、NPOおよびボランティア団体等との協力・連携を図りながら進めます。
- 大会で使用する資材等には、県産木材を積極的に活用するとともに、廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の徹底、とりわけ大会参加者への物品の提供については、ワンウェイ(使い捨て)プラスチック包装・容器等の使用を極力なくすなど、環境に最大限配慮した大会を目指します。
- 高齢者や障害者をはじめ、すべての参加者の安全、安心を確保し、快適に、清潔に過ごせるよう、ハード面はもちろんのこと、情報アクセシビリティの観点なども含めて、ユニバーサルデザインを意識しながら進めます。

2 招待計画

(1)招待計画による招待区分

参加者区分		人数
県外招待者	・ 公益社団法人国土緑化推進機構理事長と滋賀県知事との協議により定める者 ・ 各都道府県知事が推薦する者	1,100人
県内招待者	・ 第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会会長が推薦する者 ・ 滋賀県の市町長が推薦する者 ・ 公募による一般県民	1,900人
	小計	3,000人
本部員・協力員	・ 実施本部員、出演者、運営ボランティア等	2,000人
	小計	5,000人

(2)運営上による招待区分

区分	人数	内訳	
中央特別招待者①	30人	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、滋賀県知事、県議会議長、次期開催県知事、開催市町長 等	
特別招待者	県外特別招待者	220人	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者、琵琶湖・淀川流域の関係者 等
	県内特別招待者	200人	県議会議員、市町長、緑化功労者、実行委員会委員 等
	小計②	420人	
一般招待者	県外一般招待者	850人	各都道府県森林・林業関係者 等
	県内一般招待者	1,700人	県内の森林・林業・緑化関係者、県内公募による一般県民 等
	小計③	2,550人	
招待者小計(①+②+③)	3,000人		
本部員・協力員④	2,000人	実施本部員、協力員、出演者、運営ボランティア 等	
合計(①+②+③+④)	5,000人		

3 招待者行動計画

● 前日(土曜日)の行程

時間	県外一般
14:00	指定集合地
14:30	↓
17:00	記念植樹 林業地視察
17:30	↓
18:30	指定宿泊地 大会受付
	指定宿泊地 夕食等

● 当日(日曜日)の行程

時間	全体進行	中央 特別招待者	特別招待者		一般招待者	
			県外	県内	県外	県内
8:00		指定宿泊地	指定宿泊地	指定集合地	指定宿泊地	指定集合地
9:00			記念植樹			記念植樹
9:30	おもてなし 広場		入場チェック		入場 チェック	入場 チェック
9:55		入場・着席				
10:00	イントロダクション		イントロダクション			
11:00	プロローグ		プロローグ			
	式典行事 記念式典		代表者植樹	記念式典		
12:00	エピローグ		エピローグ			
13:00	おもてなし 広場	昼食	昼食・休憩			
14:00						記念植樹
		駅等	駅等で 解散 視察コース参加	指定地 解散	駅等で 解散 視察コース参加	指定地 解散

※招待者の行動計画は変更となる場合がある。

※一般招待者(県外)は前日に記念植樹を行う。(全国林業後継者大会参加者を除く)

4 受付計画

(1) 前日受付

- 宿泊する招待者については、大会前日、宿泊施設にて1回目の受付を行います。
- 宿泊施設には招待者専用の受付を設置し、スムーズなチェックインができるようにします。
- 宿泊施設での受付業務は、原則、実施本部員が行います。

(2) 当日受付

- 全国植樹祭当日の受付は、宿泊施設や指定集合地で、バスに乗車する前に行います。
- 指定集合地では、安全性の確保のため、原則、専用の受付テントを設けて招待者の受付に当たります。
- 万が一のIDカードの紛失や記念品等が不足した場合に備え、式典会場入口付近にIDカード再発行所を兼ねた記念品のストックヤードを設け、そこで不足品の対応を行います。
- 必要に応じて受付業務の補助や配付物の補充等の対応がとれるよう、関係者と連携を図ります。

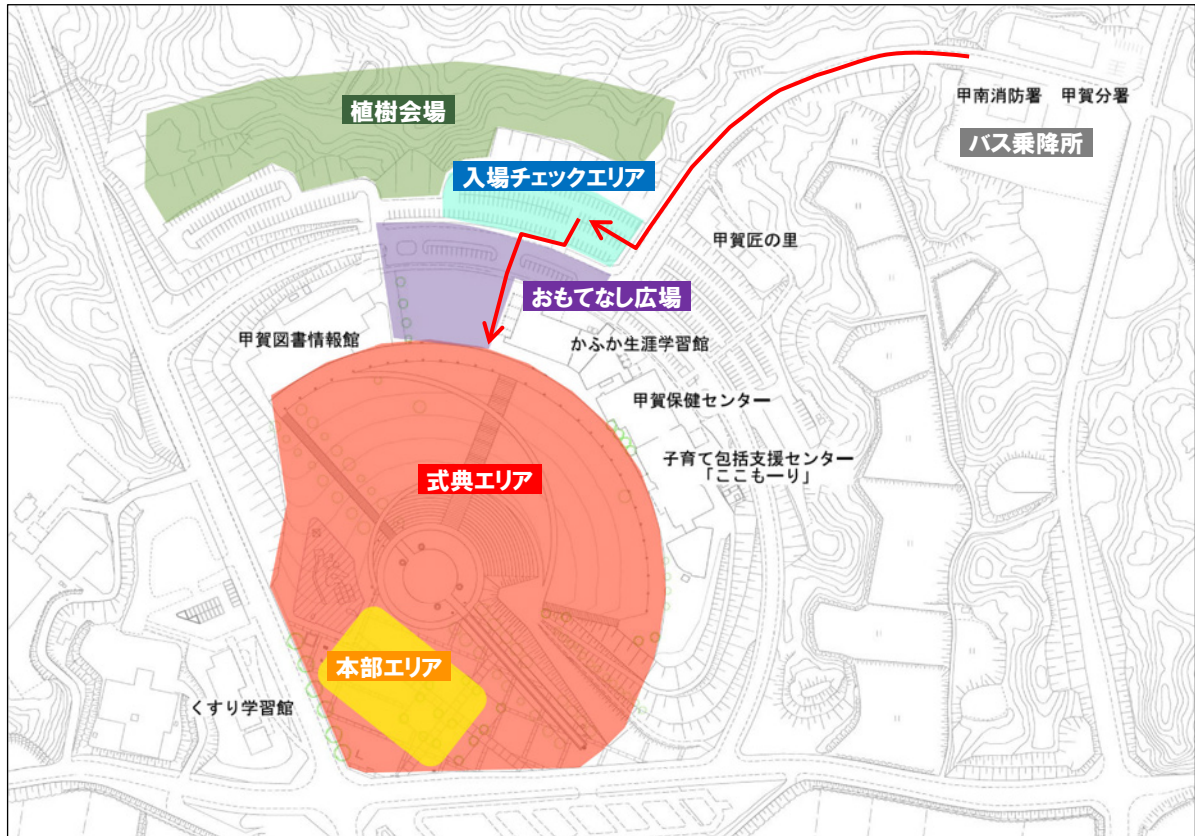
招待者区分	受付日	受付種類	受付場所	受付内容
県外招待者	前日	宿泊受付	宿泊施設	①本人確認 ②ルームキーの引き渡し ③記念品・大会用品の配付 ④宿泊案内の配付
	当日①	バス乗車受付	宿泊施設	①IDカードの着用確認 ②本人確認(乗車名簿と照合)
	当日②	入場チェック	式典会場	①手荷物・IDカードの確認、持込禁止品の預かり ②金属探知機
県内招待者	当日①	バス乗車受付	指定集合地	①本人確認 ②記念品・大会用品の配付
	当日②	入場チェック	式典会場	①手荷物・IDカードの確認、持込禁止品の預かり ②金属探知機

(3) 招待者に配付する記念品等

- 全国植樹祭の開催理念や大会テーマ、滋賀県の自然や産業、観光資源、特産品等を全国に情報発信するために、記念品等を配付します。
- 記念品の選定にあたっては、県産品の活用を図り、環境に配慮したものとするとともに、遠方からの招待者の持ち帰りやすさに配慮します。
- 式典の円滑な運営のため、IDカードや帽子等を配付します。

5 会場内動線計画

(1) 入場時の動線



(2) 退場時の動線

入場時のコースを反対に戻る動線とします。

6 特別接伴計画

(1)特別接伴が必要と認められる招待者の対応

特別接伴が必要と認められる招待者には、実施本部員が次の対応を行います。

①中央特別招待者

- ・ 移動には原則として、借り上げ車等の乗用車を使用します。
- ・ 前日は、出迎えからレセプションの受付、会場内の案内、誘導、宿泊場所への案内など常時サポートします。
- ・ 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、昼食案内、見送りまで常時サポートします。
- ・ 中央特別招待者の行動が常時把握できる通信連絡体制を整えます。

②特別招待者

- ・ 移動には原則として、バスを使用します。
- ・ レセプションに参加する特別招待者については、出迎えからレセプションの受付、会場内の案内、宿泊場所への案内など常時サポートします。
- ・ 式典当日は、出迎えから受付誘導、会場内の案内、植樹誘導、昼食案内、見送りまで常時サポートします。
- ・ 特別招待者の行動が常時把握できる通信連絡体制を整えます。

(2)レセプション計画

天皇皇后両陛下の御来県を歓迎するとともに、第72回全国植樹祭招待者の来訪を歓迎し、懇親を深める場とします。

【主催】 滋賀県

【開催日時】 全国植樹祭開催の前日

【会場】 両陛下の宿泊施設内

【出席者】 400名程度

- ・ 中央特別招待者
(国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、次期開催県知事、滋賀県知事、県議会議長、開催会場市町長 等)
- ・ 県外特別招待者
(県選出国會議員、緑化功労者、代表表彰者、琵琶湖・淀川流域の関係者 等)
- ・ 県内特別招待者
(県議会議員、市町長、緑化功労者、実行委員会委員 等)

7 湖国「滋賀」のおもてなし・魅力発信

- 県外招待者の皆さんに、琵琶湖をはじめとする豊かな自然や、文化、歴史的資産など、本県の持つ多種多様な魅力を伝える「視察コース」を設定し、事前に参加を促すなど、観光の振興を図ります。
- 公式ホームページ等を活用した観光PRや、大会参加者への観光パンフレットの配布により、本県の魅力ある観光地を広く発信します。
- 「おもてなし広場」等での観光案内や、森の恵みをはじめとする本県の多様な地場産物等を取り揃え、物産販売を促進します。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

(1)おもてなし広場計画

- 式典会場内におもてなし広場を設置します。招待者が安全・安心・快適に過ごせるよう総合案内所や湯茶接待コーナー、救護所、仮設トイレを整備します。
- 国民的資産に位置づけられた「琵琶湖」や森林などの豊かな「自然」、県内各地の多種多様な「食や文化」、「歴史的資産」など、本県の魅力を関係団体等と協力しながら広く発信します。
- おもてなし広場では森の恵みをはじめとする本県の多様な地場産物等を取りそろえ、物産販売を促進するとともに、ゆっくりとくつろいでいただける空間とします。

区分	種類	内容
おもてなし広場	総合案内所	参加者に対する各種案内・情報提供、案内誘導、各種パンフレットの配布、遺失・拾得物の管理。
	おもてなしステージ	歌や踊り、郷土芸能等の披露。
	湯茶接待コーナー	参加者に湯茶、ミネラルウォーターを提供。
	販売コーナー	県内の特産品や飲食物等の販売。
	展示コーナー	県内の森林・林業、観光等を紹介。
	臨時郵便局	記念切手の販売、郵便・宅配サービス。
	救護所	参加者の体調管理・救護。
植樹会場	休憩コーナー	休憩用テントを設置。
	案内所・簡易救護所	参加者に対する各種案内・情報提供、応急処置。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

(2) 昼食計画

① 基本的な考え方

- 県産食材、地元特産品等を使用した「滋賀県らしい」弁当とします。
- 昼食の製造、輸送、保管、配付は衛生面に万全を期すこととします。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

② 招待者への対応基本的な考え方

- 昼食場所
 - ・ 原則として式典会場内とします。
 - ・ 中央特別招待者とその随員は、指定場所での昼食会とします。
- お弁当の内容等
 - ・ 滋賀県の県産食材をふんだんに使った、「滋賀県らしい」献立とします。
 - ・ 弁当の輸送・保管・配付は、衛生・安全面に十分配慮し、保冷車で運搬します。
 - ・ 納入業者の選定は、製造能力および運搬時間・距離等を検討して選定します。

③ 出演者・ボランティア・スタッフ等への対応

- 式典会場内または業務に従事する場所での昼食とします。

(3) 湯茶接待計画

- 招待者、出演者等が快適に過ごせるよう式典会場に湯茶接待所を設置します。
- 一般招待者用にはおもてなし広場、特別招待者には控室、出演者には出演者控所で湯茶、ミネラルウォーターを提供します。

8 医療・衛生計画

(1)医療救護所の設置

- 式典会場および各記念植樹会場に救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。
- 各救護所には、医療品や休憩用ベッド等を備えます。
- 消防署や近隣の医療関係機関の協力を得て、緊急の場合の搬送・受入体制を整えます。

(2)衛生対策

- 保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- 食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供施設などの指導を徹底します。
- 飲食等により発生する廃棄物の適切な処理を行い、各会場およびその周辺の環境美化に努めます。

9 消防・防災・警備計画

(1)消防・防災

- 参加者の安全を確保し、安心して参加できるようにします。
- 消防、警察その他関係機関との協力体制を築き、連携を密にします。
- 特に危機管理については、責任者を明確にし、迅速な初期対応ができるようマニュアル等を作成し研修を行います。
- 実施本部の消防・防災・警備班が中心となり、異常の早期発見、通報に努めます。
- 会場内は、喫煙所を除きすべて禁煙とし、主要施設には消火器を設置します。
- おもてなし広場等の火気使用についても管理を徹底します。
- 避難については、避難計画を策定し、実施本部員への周知徹底を図るとともに、参加者全員が安全に避難できる体制を整えます。

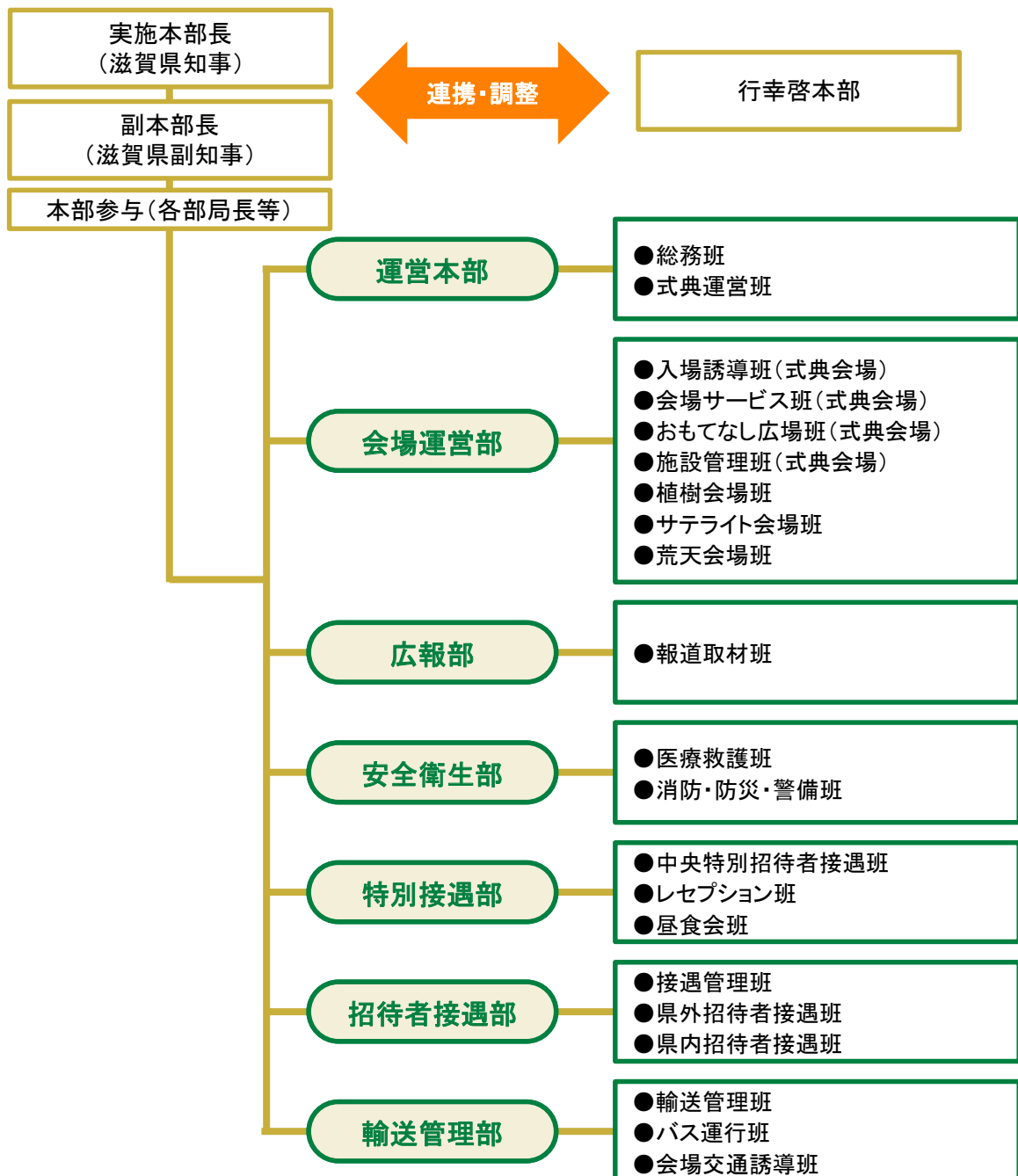
(2)警備

- 会場内での事件・事故を防止し、全国植樹祭の円滑な運営を図るため、警察等関係機関と協力して警備を実施します。
- 警備員や実施本部員などを配置して、警備や車両の整理、参加者の誘導を行います。
- 式典会場の入場ゲートでは、金属探知機による持ち物検査や入場者の確認を行います。

10 実施本部計画

- 円滑な運営を図るための実行組織として、「第72回全国植樹祭滋賀県実施本部(仮称)」を設置します。
- 県職員その他、開催市職員、ボランティアなどの積極的な協力を得て効率的な要員配置を行うとともに、実施運営の円滑化や参加者の安全性、快適性の確保に努めます。

第72回全国植樹祭滋賀県実施本部・組織体制図(案)



11 研修リハーサル計画

- 円滑な運営に向けて、実施本部員、協力員（関係市町職員、ボランティア等）の研修を行うほか、出演者を含めたリハーサルを実施します。
- 効果的な研修・リハーサルを実施するため、事前に、各班単位の「運営マニュアル」を作成します。
- リハーサル計画に基づき、実施本部員全員が業務内容を把握できるようにします。

(1) 実施本部員等の研修計画

実施本部員、協力員（関係市町職員、ボランティア等）の研修は、事前の資料配付、現地視察、リハーサルへの参加等により実施します。

(2) 研修・リハーサル計画

区分	時期	場所	参加者	内容
出演者説明会	3カ月前	未定	出演者代表	式典概要・参加内容説明
合同説明会	開催8～6週間前	未定	実施本部員 出演者代表	式典全体の説明
式典リハーサル	開催6～4週間前	式典会場	出演者(介添者) 実施本部員	式典部分のリハーサル
総合リハーサル	開催1ヶ月前	式典会場	実施本部員 協力員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他
荒天会場説明会	開催1ヶ月前	荒天会場	出演者(介添者) 実施本部員	会場確認および説明
前日リハーサル	開催前日	式典会場 植樹会場	実施本部員 協力員 出演者	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他

12 雨天時・強風時対応計画

- プログラムごとに雨天計画を策定し、役割分担の明確化と雨天体制へのスムーズな移行を行います。
- 式典演出については、天候に応じ各出演団体との協議の上、内容の変更を決定します。
- 式典音楽隊の演奏が不可能な場合は、事前に演奏を収録した音源を使用します。
- 会場警備上、傘の持ち込みができないため、事前にレインコートを配布します。

1 基本的な考え方

- 宿泊招待者(主に県外招待者)は、式典前日に式典会場や植樹会場の近隣地域などで実行委員会が指定する施設に宿泊することを原則とします。
- 式典当日は、宿泊招待者は宿泊施設から、当日招待者(主に県内招待者)は県内各地に指定される集合地から、原則として実行委員会が手配するバスにより会場に移動することとします。
- 宿泊施設の収容人員、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制、大会前後の視察ルートを総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整えます。
- 招待者の安全で円滑な輸送を図るため、運行ルート、輸送スケジュールおよび必要な交通規制などについて、関係者で綿密な打ち合わせを行うとともに、添乗員の配置・案内により快適な輸送体制を整えます。
- 会場周辺およびアクセス道路沿線の安全を確保し、警備に万全を期します。
- 会場へのアクセス道路沿線については、関係市町や県民の皆さんの協力の下で美化に努めるとともに、招待者を歓迎します。
- 滋賀県の温かいおもてなしの心をもって、無理のない安全・安心な宿泊・輸送体制を整えます。
- 県外招待者に、琵琶湖をはじめとする豊かな自然や、文化、歴史的資産など、本県の持つ多種多様な魅力を伝える「視察コース」を設定し、観光の振興を図ります
- 外国の方の参加にも配慮し、状況に応じて外国語での表記や案内を行います。



参考例：第70回全国植樹祭愛知大会

2 宿泊計画

- 式典会場や植樹会場までの道路状況やアクセス等を考慮した適切な宿泊エリア・宿泊施設を選定します。
- 施設内または近隣で、安全にバスの乗降できる場所が確保された宿泊施設を選定します。
- フロントやロビー等宿泊施設内に専用デスクを設置し、招待者に大会用品等(大会プログラム、IDカード、帽子等)を円滑かつ確実にお渡しできる体制を整備します。
- 食事のメニューについては、本県の食のPRに努め、県の特産品を積極的に取り入れたメニューを提供します。
- 緊急時に搬送できる救急病院や緊急時対応者の有無、AED(自動体外式除細動器)の設置状況を事前に把握し、万が一の事故に備えます。

3 輸送計画

(1) 輸送方針

- 参加者はバスで輸送することを基本とし、招待者区分ごとに輸送計画を作成します。
- 参加者の安全で円滑な輸送を行うため、バス事業者、関係機関と協議・検討の上、運行ルートを決めます。
- 式典当日の道路混雑等のリスクを想定し、できるだけ移動時間がかからない最短ルートを設定します。
- 交通事故や渋滞等の不測の事態に備え、代替ルートや迂回ルートの設定を行います。

(2) 関係車両一覧

参加者区分	使用車両	台数	同乗者	備考
中央特別招待者	借上車等	30台	接伴員	出迎え・添乗・誘導・見送り
県外招待者	計画輸送バス	137台	添乗員	各種案内・誘導
県内招待者	計画輸送バス		添乗員	各種案内・誘導
本部員・協力員	計画輸送バス		担当班員等	出展者等搬出入を伴う場合はトラックを手配

(3) 駐車場計画

- 駐車場は道路交通事情も考慮し、会場の近隣地または近傍地から選定し、一時的に確保します。

4 運行管理体制・緊急時対応

- 式典会場周辺に輸送管理本部を設置し、運行状況の管理を一元的に行います。
- 車両の運行状況を把握し、安全で円滑な運行体制を実現するため、輸送ルート上に休憩所、チェックポイント、バス運行調整地を設け、それぞれに係員を配置し、携帯電話や無線機等によりリアルタイムの連絡体制を確保します。

5 道路交通対策

- 会場周辺の道路や招待者の輸送ルートにあたる道路については、事前に道路管理者と協議の上、道路工事や道路占有許可等の必要な措置を講じます。
- 参加者および周辺住民等の交通の安全の確保と車両の円滑な運行を行うため、関係機関の協力を得て、交通整理、交通規制等を実施します。

第7章 荒天時計画

1 基本的な考え方

- 暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、式典会場での式典が困難であると判断した場合は、荒天会場での式典を実施します。
- 開催日の1週間前から随時情報収集に努め、荒天会場での実施の可否を判断します。
- 荒天会場での実施決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

2 開催会場

◆ あいこうか市民ホール
(甲賀市水口町水口5633番地)



3 開催規模

- 県内外からの招待者等を合わせて1,000人程度の規模に縮小して開催します。

区分	人数	内訳
中央特別招待者	30人	国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、滋賀県知事、県議会議長、次期開催県知事、開催市町長 等
県外特別・一般招待者	470人	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者、琵琶湖・淀川流域の関係者 等
県内特別招待者	200人	県議会議員、市町長、緑化功労者、実行委員会委員 等
本部員・協力員	300人	実施本部員、協力員 等
合計	1,000人	

4 荒天時運営計画

(1) 式典計画

- 晴天時の3部構成を記念式典のみとし、大会テーマの表現、代表者記念植樹を除いた構成とします。
- 式典行事の時間は、50分程度とします。

(2) 判定会議

- 荒天時や地震、突発事案の非常事態に迅速、適切に対応するため、必要に応じ大会開催の可否について判断する会議(以下、「判定会議」という。)を設置します。
- 判定会議のメンバーやその召集方法、大会の中止・変更の判断基準とその対応について、ガイドラインを設定します。

1 基本的な考え方

- 第72回全国植樹祭の開催理念を広めるとともに、将来を見据えた滋賀の森林づくりや木材利用の必要性等を広く啓発するため、県民や琵琶湖・淀川流域をはじめ、日本、世界の皆さんに、琵琶湖とその水源となる森林の大切さを理解し、親しんでいただける記念事業を実施します。

2 記念事業

● 苗木のホームステイ・スクールステイ

森林の大切さと緑づくりへの関心を高めるため、全国植樹祭等で使用する苗木を、県内および琵琶湖・淀川流域の一般の方や企業・団体等に育成してもらい「苗木のホームステイ」を実施します。また、県内の小学校4年生を対象とした森林環境学習「やまのこ」事業とも連携し、「苗木のスクールステイ」を実施します。

- ◇「苗木のホームステイ」
＜時 期＞ 平成30年10月～
- ◇「苗木のスクールステイ」
＜時 期＞ 令和元年5月～



● ビワイチ森づくり事業

県内全域・県民総ぐるみで大会を盛り上げていく取組の一環として、全市町で一般県民等を対象とした森づくりイベント等を実施します。

- ＜時 期＞ 令和元年11月10日(日)～
- ＜場 所＞ 県内各地域
- ＜内 容＞ 植樹、森林整備、木工体験および植樹祭のPR活動等



● 第72回全国植樹祭1年前記念イベント

全国植樹祭の開催1年前の時期に、大会の周知、開催機運の醸成を図るため開催します。

- ＜時 期＞ 令和2年6月6日(土)
- ＜場 所＞ ビラDEST今津(高島市今津町深清水)
- ＜内 容＞ 記念伐採、木工体験(プランターカバー作り)、森林に親しむ体験などによる大会やサテライト会場、一般植樹会場等のPR

● カウントダウンイベント

第72回全国植樹祭開催機運を盛り上げるため、開催日までのカウントダウンイベントを実施します。

● 緑の少年団「グリーンジャンボリー」

第72回全国植樹祭において重要な役割を担う緑の少年団の育成および大会への機運醸成のため、県内および琵琶湖を水源として利用する府県(大阪府)の少年団の交流、活動発表を行います。

<時期> 令和元年10月27日(日)

<場所> 鹿深夢の森 かふか生涯学習館(甲賀市甲賀町)

<内容> 活動発表、樹木観察、ネイチャーゲーム、木工体験(プランターカバー作り)

● こども水源の森サミット

県内全域に加え、琵琶湖を水源として利用するすべての府県から緑の少年団の参加を募り、大会への機運を醸成するとともに、琵琶湖・淀川流域における滋賀県の森林づくりの重要性を共有します。

<時期> 令和2年夏～秋

<場所> 未定

<内容> 未定

● 「木製地球儀」巡回展示

第72回全国植樹祭の開催機運を醸成するため、大会シンボルである「木製地球儀」を県内各地で巡回展示します。

<時期> 令和2年春～

● 記録誌の発行、記録映像の作成

第72回全国植樹祭の式典行事、植樹行事をはじめ、各種記念事業などの取組みを、記録誌や記録映像等にまとめ、関係機関等に配付します。

● 記念碑の建立

第72回全国植樹祭の開催を記念し、記念碑を建立します。

※記念事業等は検討状況に応じて適宜追加します。

3 関連事業

関連事業は、関連団体が主催する事業のうち、第72回全国植樹祭の目的と関わりが深く、実行委員会と互いに連携していく必要がある事業とします。

● 第50回全国林業後継者大会

全国の林業後継者が一堂に会し、林業の振興と森づくりの重要性について意見を交わし、林業を担う人たちが、希望や誇りを持って働き続けられる林業の魅力を全国に発信します。

<時期> 令和3年(2021年) 春季(第72回全国植樹祭の前日)

<場所> 多賀町中央公民館「多賀結いの森」

<内容> 森林・林業関係者の活動発表、パネルディスカッション等

1 基本的な考え方

- 広報宣伝や協賛募集を通じて、大会の開催理念、基本方針、内容等について広くPRすることで、開催への機運を高めるとともに、これを契機として、県民や琵琶湖・淀川流域をはじめ、日本、世界の皆さんに、琵琶湖とその水源となる森林の大切さを理解し、親しんでいただける機会を提供します。
- 広報媒体の特性を活かした情報発信により、効果的な広報活動を実施します。

2 広報計画

全国植樹祭の開催理念や事業の展開について、広く普及・浸透を図るために行います。

- 各報道機関との連携を深めるとともに、第72回全国植樹祭の広報誌を発行します。
- 公式ホームページを開設し、各種イベント・取組等に関する情報を積極的に発信するとともに、各種の問い合わせや申し込みなどについてもインターネットを効率的に活用します。
- 大会テーマ、シンボルマークおよび大会ポスター原画を活用し、第72回全国植樹祭の開催を県内外に広報します。

(1) インターネット活用(各種情報提供・募集など)

第72回全国植樹祭の公式ホームページを開設するとともに、SNSの活用等を通じて、各種イベント・取組等に関する情報を積極的に発信します。また、各種問い合わせや申し込みなどについても、インターネットを効率的に活用します。

(2) 県・市町の公共広報活用(各種情報提供・募集など)

県および各市町村の広報や広報番組等の公共広報媒体を有効活用し、広く県民に向けて、きめ細かい情報提供とPR活動を実施します。

(3) マスメディア活用(関連行事の報道など)

テレビ、ラジオ、新聞等、各報道機関との連携を深めるとともに、全国植樹祭、記念事業等に関する情報を提供します。

(4) 企業・団体との連携(広告協賛など)

シンボルマーク等の使用を広く呼びかけるなど、県内を中心とした企業・団体の支援協力による広報活動を通じ、全国植樹祭の周知を図ります。

(5) 植樹祭情報紙の発行

「植樹祭だより『緑のしずく』」を発行し、開催準備状況や記念事業の実施状況等について情報発信します。

(6) PRグッズの作成・配布等

シンボルマーク等を用いた各種PRグッズを作成・配布し、開催の周知と機運の醸成を図ります。

3 協賛計画

- 第72回全国植樹祭を一過性のイベントとして終わらせることなく、これを契機として県民参加の森づくりのさらなる拡がりへと繋げていくため、企業や団体に対し、広く支援を求めています。
- 協賛企業等は、第72回全国植樹祭の式典会場や公式ホームページ、広報誌、記録誌等で協賛者名が掲載されるなど、様々な特典が得られます。

(1)資金協賛

植樹祭行事の実施に要する資金(協賛金)の提供

(2)物品協賛

植樹祭行事の実施に要する物品(協賛物品)の提供

(3)その他

機器等の無償貸与、役務の提供、広告掲示などによる協力



【表紙写真】



第72回全国植樹祭 基本計画

令和2年1月



第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会事務局
(滋賀県琵琶湖環境部 全国植樹祭推進室内)

〒520-0807 滋賀県大津市松本一丁目2-1 滋賀県大津合同庁舎内
電話番号：077-528-3970 ファクシミリ番号：077-528-4891
<https://www.pref.shiga.lg.jp/syokujusai-shiga2021/>
または、「第72回全国植樹祭」で検索してください。